

9月22日(日)

沙織は今日も好調をキープ、昨日のエスニカン・ファイターとの対戦がきている。サーブがとて面白い、簡単にキープしていく、リターンゲームも積極的に叩いている。フォアのダウンザラインも良く決まる。相手は決して弱くはないのだが、沙織の早い攻撃についていけず自分のペースに持っていけないことにいらだつ。2セット目に巻き返してくるものの、終始先手を取る沙織がこのセットも筆り取る。

美咲は相手の顎にもとどかない。ほんとに12歳以下なんだろうかと疑いたくなる。昨日の梓戦の彼女にはいかに好調の美咲であろうと2-6, 3-6くらいだろう(私の予想スコアは良く当たる)と半ばあきらめている。美咲も疲れ気味で好調とはいえない様子。ところがなんと相手がやけにエラーが多い、ボールも伸びてない。しかし時たま出る豪快なショットや、切れ味のいいアングル(とても12オレベルではない)で、やはり0-2の美咲ビハインド。このあたりから体がほぐれてきた美咲の、コーナーへの深いボールが決まり始める。この大会に入ってから積極的にコーナーやアングルを狙うようになってきており、またそれがなければなかなか勝ちきれないということを、甘いボールはすぐに叩かれるというレベルの中で、自ら掴み取っているように見える。ついでに相手にダブルフォールトが増える。追いつきリードするも、突き放せないままタイブレークにはいり、ここでも驚異的な挽回を見せた美咲がこれをものにする。2ndはやや持ち直した相手に、疲れが出てきた美咲が押され始め、ファイナルに持ち込みたくない必死に食い下がるが、これを落とす。雨のため押したスケジュールが美咲に有利に働いた。ファイナルセットはスーパータイブレーク(10点先取)英語ができない日本の選手だからとレフェリーに許可を取り説明と兼ねて美咲を元気付けに行く。もう1セットやるとなると体力面で勝ちきれないと悟っていたのかすでに泣いていた。しかし集中力を発揮しこのタフな相手とタフな試合を制した。美咲の勝ちへの執着心が相手の不調や運を引き込み、私の予想を覆しての勝利をものにする。改めて「勝利への執着」が何を引き起こすかわからないことを、小さなジュニア選手から教えられた。沙織の決勝相手は、ボールのスピード、コントロール、安定感、足の早さ、すべてにおいて数段上に行く。結果は0-6, 1-6と沙織のアウトをインにしてくれたジャッジのおかげで1ゲーム取れたが、出足から予想できた通りの展開で終わってしまった。背はそんなに高くないが大人プレイヤーの体つきの相手に対し、沙織はまだまだ子供の体、足腰、腕が幼い感じである。ただ、テニスのスタイルは、沙織のほうが良い。ベースラインから下がらないで、ネットにも積極的に出る。反応もずいぶん良くなってきている。足腰がしっかりして、動きがサマになってくるとおそらく近いうちに追い越すだろう。美咲の決勝は第一シード、背は低いが高い打点で打ち降ろしてくる攻撃的ななかなかいいテニスをする(山外選手に似ている)。しかし前の試合で修羅場を切り抜けた美咲には、そんなに厳しいショットには映ってなかったようだ。ボディー全体を使って重いボールを打てるようになってきた美咲の深いボールがコーナーをえぐるとほとんど返ってこなくなった。決勝まですばらしいテニスを見せていたシード選手は、2位に終わった。